

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 30 年 4 月 10 日

事務事業名		藍工房管理運営事業				事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け				新規/継続 単独/補助		事務事業No. 020203000632	
総合計画の施策名		O202 生涯学習・芸術文化活動の推進				単独		090601	
政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり				主要事業		所属課 生涯学習課	
施策名		02 生涯学習・芸術文化活動の推進				市長マニフェスト			
手段名		03 ③生涯学習・文化施設の活用				未来PJ事業		グループ 公民館G	
		合併建設計画事業				合併建設計画事業			
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目		一般会計				単年度繰返し (平成14年度~)			
法令根拠						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<ul style="list-style-type: none"> ・真壁藍工房は江戸末期から旧真壁町下谷貝で続く天然藍を醗酵させる伝統技法を守り継承されてきた。伝統的な染色法である藍染め技術の継承を図り、真壁藍の技術を市内外に広く普及するため、芸術文化活動の交流拠点として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真壁藍保存会との連絡調整 ・藍染め体験や藍染め講座その他事業の支援 ・管理運営業務委託の契約・支払い ・真壁藍工房土地建物賃料の支払い ・真壁藍工房の使用料を毎月市へ納入 ・真壁藍工房利用許可書発行 ・公民館講座等の開催

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
藍染体験講座の回数内容とも充実した取り組みが出来た。 来年度にむけて、公民館講座の開催を計画し円滑な実施となるよう準備を進めた。	体験講座回数	回	14.00	10.00	10.00	10.00	10.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
市民、市外の団体及び個人。	体験者数	人	263.00	327.00	300.00	300.00	300.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
日本古来の伝統的芸術に接し理解を深める。	作品展来場者	人	6,545.00	4,203.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

		28年度	29年度	30年度	期間限定	
		(実績)	(実績)	(計画)	総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円 0	0	0	0
		県支出金	千円 0	0	0	0
		地方債	千円 0	0	0	0
		使用料・手数料	千円 0	0	0	0
		その他	千円 0	0	0	0
		一般財源	千円 780	780	180	180,000
	事業費計 (A)	千円 780	780	180	180,000	
人件費	正規職員従事人数	人 2.00人	2.00人	2.00人		
	述べ業務時間	時間 97.00	65.00	65.00		
	人件費計 (B)	千円 284	190	190		
トータルコスト (A) + (B)		千円 1,064	970	370		

		29年度事業費 実績 (千円)		30年度事業費 予算 (千円)	
事業費の内訳	13 委託料	600		14 使用料及び賃借料	180
	14 使用料及び賃借料	180			
		合計	780	合計	180

(4) 当該年度の実施内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業			

事務事業名	藍工房管理運営事業	事務事業No.	20203000632	所属課	生涯学習課
-------	-----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	衰退しつつあった藍染めを保存・伝承する目的でふるさと文化振興基金を使い、藍染め講座を実施する中で真壁藍保存会が設立。実際に紺屋だった家屋を修繕し、土地を利用し真壁藍保存会に管理運営を委託する。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	化学染料を一切使っていない天然藍のため、日本古来の藍色の美しさを認識し天然藍を維持する材料費が高価なため染色代が高く、希少価値があり高級感もある。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	真壁藍の希少価値も広く理解されつつある。今後は藍管理業務までできる会員の育成を強化していく必要がある。市と賃貸主との賃貸借も契約期満了(平成29年度末)を目安に自主運営でスタートできるように、会の組織も整理し準備を進めていくよう指導していく。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目		
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	藍染めの体験をすることで、桜川市の伝統工芸に対して認識や関心が高まる。また、総合計画の伝統文化の保存・伝承につながる。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	市の伝統文化として捉えているため、公共性に取り組む必要がある。今後も真壁藍保存会により天然藍が適切に管理されるよう併せて人材の育成にも支援する。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	真壁藍保存会の管理技術、藍染技術の向上また、デザインセンスの向上により現在も体験学習や講座希望者の人数の増加など年齢層に変化がみられる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	真壁藍染めをなくすことになり、市民の文化活動が停滞し伝統工芸継承が滞る。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	類似事業がない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか? やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	藍の管理は特殊技術を要するため管理は熟知していることが肝要である。平成30年度より委託業務は行わず、土地及び施設の賃貸借を市と地権者で締結(3年間)
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	市民が誰でも利用可能であり、受益の負担は公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	藍染めに興味をもつひとは増えているが、市内の会員がなかなか増えない状況である。生きている藍の管理を担える市民が会員に加盟してくれるよう、はたらきかけが必要である。																					
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
藍の管理は難しく、かつ、きめ細やかな作業が求められます。現在、管理できる会員は数名しかおらず、負担が大きくなっている状況です。このことから、今後、藍を管理できる人材を公民館講座等により育成していく。また、工房の運営については、当面、市が施設の賃貸借を地権者と行い、運営については、自主運営とする。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持			×																		
	低下			×																		
(6) 事務事業優先度評価結果																						
成果優先度評価結果	②																					
コスト削減優先度評価結果	⑨																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>